

2015（平成 27）年度 京都大学 入試問題 文系 第 2 問 解答例

問一

誕生を喜び祝い、死を悼むはずの普遍的な心の自然な動きが、冷淡ではほめられないが、長年多くの体験を重ねて老いた今、若干緩んで鈍るのは、やむを得ないだろうということ。

問二

数年来親しい人が亡くなる数が多すぎて、不満ではあるが、いくら何でもそこまで親しい人が多いせいではなく、何より人の死は自然の道理で、自ら減らせはしないということ。

問三

青少年期には稀な、親しい者の死に際会して受ける、まともで素直で心底からの致命的な痛撃を、老年に至るまで経験し続けて生きていられるとは思えず、仮にも可能であれば人間業ではなく、筆者には到底無理であるということ。

問四

厳粛な死に対する重大な衝撃は自衛本能で完全に消失し、故人の有様が具象的な光景として鮮明に想起されるなら、筆者は楽しく愉快的交際のみ思い出すと推測されるから。

問五

筆者は、青少年期には親しい人の死に苦痛を覚えたが、老いた今、心身への害に対する自衛本能により、故人との楽しく愉快的交際のみ具象的に想起し、そこに反省も自責も一切なく、安らぎを覚え、有難いと受け止めるようになった。